JICA 教師研修　学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	森岡　浩希	学校名	東京都 私立目白研心中学校・高等学校
担当教科等	外国語	対象学年（人数）	中 3・高 1・高 2・高 3（50 名）
実践年月日もしくは期間（時数）		2021 年 11 月 10 日（2 時間）	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：国際理解		
2. 単元(活動)名：なし		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「支援とは何か」 単元目標：「支援」にまつわる生徒の意識を変える 関連する学習指導要領上の目標：		
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	・「支援」についての理解を深めることができた
	②思考力、判断力、表現力等	・個人ワークで自分の考えを言語化し、グループワークでそれを発信することができた ・他者の考えに対して自分の意見を持つことができた
	③学びに向かう力、人間性等	・他者の考えについて否定することなく引き受けることができた ・自分の考えに対して変容することを受け入れることができた
5. 単元設定の理由・単元の意義 （児童/生徒観、教材観、指導観）	【単元設定の理由】東京の私立学校に通う 10 代の子どもたちは支援について深く考える機会がないのではないか、という仮説のもとにこれからのグローバル社会に適応するような理解を得てほしいと考えたため 【単元の意義】年代を越えた学習グループでの意見交換と、協力隊員の方の経験談を聴くことによりパラダイムシフトを起こすことができる 【児童／生徒観】平均して不自由のない生活を送る中で、支援とは何かという問いに対しては「すべきこと」「してあげること」という考えを持っている生徒が多いように見受けられる 【指導観】本校に通う生徒は「支援」について考えると、どうしても「してあげること」という一方的な理解をしてしまいがちである。グローバル化が進むこれからの社会で必要となる、次世代的な支援のあり方について考えるために、支援の本質について深く思考し、ディスカッション・講演・ディスカッションの流れによってパラダイムシフトを起こしたい。	

6. 単元計画（全 3 時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	支援について、今知っていること	・現時点での自分の意識を知る ・現時点での他者の意識を知る	4 学年が混在する学習グループを作り、「支援」というキーワードで自分たちが知っていることや思うことをブレインストーミングし、共有する	ワークシート
2 本時	経験談を聞く	協力隊の方の経験談を通して、支援の実態などについて見識を深める	講演者の講話に耳を傾け、気づきや学びを言語化して記録する	ワークシート
	支援について、再度考える	講話で得た学びを踏まえてもう一度意見交換する	再度自分の考えをまとめ、グループ内で意見交換する	ワークシート
3	まとめと振り返り	講話を聴く前と後で自分の考えにどのような変化があったのかを振り返る	ワークシートに記入した内容を自己分析して、自分自身に起きた変化をまとめる	ワークシート

7. 本時の展開（1・2 時間目）

本時のねらい：「支援」について現時点での生徒の理解を確認し、講話を聴くことで新しい気づきを与える

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 （20 分）	「支援とは何か」意識調査① →クラスごとにどのような意見が出たのかを代表者が全体に発表する。 中 3（5 分）→高 1（5 分）→高 2（5 分）→高 3（5 分） ・あなたは誰かを「支援」したことがありますか？ ・あなたは誰かに「支援」されたことはありますか？ ・「支援」をするときに大切なことや気を付けるべきことは何だと思いますか？ ・あなたは誰かを「支援」したいですか？	発表者が発言しやすい雰囲気を醸成しておく	ワークシート
展開 （50 分）	協力隊員による講話		

まとめ （30 分）	「支援とは何か」意識調査② →ワークシートに個人で記入した後、グループで共有する ・あなたは誰かを「支援」したことがありますか？ ・あなたは誰かに「支援」されたことはありますか？ ・「支援」をするときに大切なことや気を付けるべきことは何だと思いますか？ ・あなたは誰かを「支援」したいですか？ ・あなたは今後、誰を、どのように支援したいですか？ ・今日一番印象に残ったことは何ですか →自分の考えを全体に共有したい生徒を立候補で募り、発表させる	他者の考えから得た気づきをワークシートに記入し、自分の考えをアップデートするよう声をかける	

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

・「支援」についての一般的な知識や、国際協力や共生の視点からの留意点について理解することができたか

・個人ワークにおいて自分の考えを言語化できたか

・グループワークにおいて自分の考えを発信するとともに、他者の意見に耳を傾けることができたか

・自身の理解が変容していくことに気づき、それを分析することができたか

9. 学習方法及び外部との連携

学習方法：異年齢学習グループでのディスカッション

外部との連携：JICA 出前講座

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

講演会を開催して生徒たちの意識を国際理解に向ける

JICA 地球広場の訪問

様々な国との文化交流

【自己評価】

11. 苦労した点	テーマについてどのように問いを立てると生徒たちのディスカッションが活発になるか、という視点でワークシートを作成した点がもっとも苦労した。 授業の中では、中学３年生から高校３年生までの生徒たちが混在するグループでの話し合いだったので、やや発言がしにくそうに見受けられる場面があった。
12. 改善点	ディスカッションの時間をもっと多く取ることができると思われる。生徒たちからも、もっとじっくり話し合いたかったという声が聞こえてきた。普段の授業の題材などを参考にして、「支援」に関する読み物などを通してインプットを増やしてから授業に臨む形を目指したい。講演に対してはしっかりと話を聞いて理解を深めることができたので、その後の話し合いのパートに対してもっと長い時間をかけるか、グループでの共有が終わった後にさらに他グループとの交流をするとさらに効果的な意見交換が生まれる可能性があると考えられる。
13. 成果が出た点	生徒たちに関しては、普段からグループワークを取り入れた授業を行っているた

	め、実践的なトレーニングができた。異年齢、普段はあまり交流のない相手に対してのチームビルディングや、同じコースに所属するという帰属意識の向上にも繋がる活動ができた。 授業者に関しては、自分が研修を受けて体験した、「現在地を知る・話を聞く・気づきを他者と共有する」という一連の学びのスタイルを学校現場に取り入れることができた。これまで行ってきた講演会のスタイルをアップデートできる可能性を感じることができた。
14. 学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	・支援は、自分がする、してもらうということだと思っていましたが、知らぬ間に支援してもらっていることが多いと気付きました。 ・自分の持っている知識を相手に与えることが支援だと考えていましたが、相手の気持ちや立場を思うことが大切だと感じました。 ・自分の中で支援は知識を相手に無理やり与えるようなイメージでしたが、自分勝手な行動は支援になるとは限らないので、相手の気持ちや考えを尊重し、共感することが大事だと気づきました。 ・支援とは発展させるためではなくて現地の人が幸せに暮らすためのものだと知ることができました。 ・ワークシートを振り返ると、講演の前は物理的なことや目に見えるものを支援だと考えていたけれど、講演後は心に寄り添うものや生活を支えるためのものが増えていました。 ・支援とは自分が誰かのために意識的に行うものだと思っていました。しかし、講演を経て、自分も誰かに支えられているという事実に気づかされました。 ・発展途上国の方々に対して自分たちが支援する立場という考えが強かったのですが、見方によっては自分たちが支えられているということに気付いたときに自分が恥ずかしくなりました。 ・今まで「支援」は自分の生活とかけ離れているものだと思っていました。講演の前は何かしらお金がかかったり負担の重いものだという印象が強かったのですが、お話を聴いてから身近なことも支援になるということを学びました。 ・支援とは自分が相手に寄り添うことや相手のためにしてあげることという、自分が上にいるようなイメージだったが、支援とはもっと、恩返しに近いものだと気付けた。
15. 授業者による自由記述	グローバル教育に専心しているコースを運営しており、中学 3 年生から高校 3 年生まで、各クラス 15 人前後、合計約 50 名、という環境を活かした内容の授業はできないものかと思案してこのような形式の授業になりました。4 学年の生徒がいるため、異年齢による縦割りグループを作ることで意見交換に緊張感と新鮮味が生まれた点は良かったと感じている。また、外部講師を招いて講演を聴く機会は多々あるものの、その内容について考えたり共有したりする機会がなかなか作れなかったという課題感もあり、今回は講話の前後に意見交換を行う形式に挑戦した。現在地における自分の立ち位置や知識を確認し、お話を聞くことで新たに気づいたことや疑問に思ったことをすぐに仲間と共有することで、学びの質を高めることにつながるのではないかと感じられる機会だった。